

特定の研究計画書によらない学術論文

次に示す論文は特定の研究計画書に基づく調査結果ではなく、おおむね外部の研究者との共同研究によるもの、あるいは放影研を著者とする論文、ならびに予備調査に基づく論文である。従って、特定の調査研究課題の章に含めていないので、ここで部別にリストした。

理事および主席研究員

- ◆ 中村 典：放射線の話「原爆と原発」。中国税理士会報 2011 (July); (No.570):12-6.
- ◆ 中村 典：放射線による発癌の考え方。Surgery Frontier 2011 (December); 18(4):100-1.
- ◆ 中村 典：放射線の遺伝的影響。日本臨牀 2012 (March); 70(3):457-460.
- ◆ 大久保利晃：疫学調査：広島・長崎の経験から福島へ。医学のあゆみ 2011 (December); 239(10):995-1000.
- ◆ 大久保利晃：放射線被曝によるリスク研究と防護基準。産婦人科の実際 2011 (December); 60(13):2055-61.

印刷中の論文

- ⌘ Double EB, Boice JD: Seymour Jablon (June 2, 1918-April 9, 2012). Radiation Research.
- ⌘ Okubo T: Long-term epidemiological studies of atomic bomb survivors in Hiroshima and Nagasaki: Study populations, dosimetry and summary of health effects. Radiation Protection Dosimetry.
- ⌘ 大久保利晃(編)：平成 23 年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書。

臨床研究部 (広島)

- ◆ Hashimoto Y, Ochi H, Abe H, Hayashida Y, Tsuge M, Mitsui F, Hiraga N, Imamura M, Takahashi S, Nelson Hayes C, Ohishi W, Kubo M, Tsunoda T, Kamatani N, Nakamura Y, Chayama K: Prediction of response to peginterferon-alfa-2b plus ribavirin therapy in Japanese patients infected with hepatitis C virus genotype 1b. Journal of Medical Virology 2011 (June); 83(6):981-8.
- ◆ 鍊石和男、門前芳夫、岡本直正：放射線の妊婦・胎児・小児への影響。日本臨牀 2012 (March); 70(3):451-6。(放射線障害)
- ◆ Ohishi W, Chayama K: Prevention of hepatitis B virus reactivation in immunosuppressive therapy or chemotherapy. Clinical and Experimental Nephrology 2011 (October); 15(5):634-40.

印刷中の論文

- ⌘ 碓井静照、松村 誠、柳田実郎、陶山昭彦、立川佳美、井上典子、木谷由希絵、江川美砂、久保田益巨、中原英樹、津村裕昭、岡田武規、石田邦夫、東條環樹、向井みどり、中元一望、答島裕子、篠田英雄、福原美百合、河野直樹、山口順之、森 博之：第 18 回在北米被爆者健康診断成績。広島医学。

臨床研究部 (長崎)

- ◆ Hida A, Akahoshi M, Takagi Y, Imaizumi M, Sera N, Soda M, Maeda R, Nakashima E, Ida H, Kawakami A, Nakamura T, Eguchi K: Lipid infiltration in the parotid glands: A clinical manifestation of metabolic syndrome. Experimental and Clinical Endocrinology & Diabetes 2012 (February); 120(2):110-5. (RR 14-08)
- ◆ 今泉美彩：放射線と甲状腺発癌。外科治療 2011 (October); 105(4):364-9.
- ◆ 今泉美彩：広島・長崎の原爆被爆者における甲状腺機能。環境ホルモン学会ニューズレター 2011 (October); 14(2):4.

遺伝学部

印刷中の論文

- ⌘ Shi L, Fujioka K, Sun J, Kinomura A, Inaba T, Ikura T, Ohtaki M, Yoshida MA, Kodama Y, Livingston G, Kamiya K, Tashiro S: A modified system for analyzing ionizing radiation-induced chromosome abnormalities. Radiation Research.

放射線生物学／分子疫学部

- ◆ Sonoyama T, Sakai A, Mita Y, Yasuda Y, Kawamoto H, Yagi T, Yoshioka M, Mimura T, Nakachi K, Ouchida M, Yamamoto K, Shimizu K: TP53 codon 72 polymorphism is associated with pancreatic cancer risk in males, smokers and drinkers. Molecular Medicine Reports 2011 (May-June); 4(3):489-95.

印刷中の論文

- ⌘ Fujiki H, Imai K, Nakachi K, Shimizu M, Moriwaki H, Suganuma M: Challenging the effectiveness of green tea in primary and tertiary cancer prevention. Journal of Cancer

Research and Clinical Oncology.

⌘ Watanabe T, Kuramochi H, Takahashi A, Imai K, Katsuta N, Nakayama T, Fujiki H, Suganuma M: Higher cell stiffness indicating lower metastatic potential in B16 melanoma cell variants and in (-)-epigallocatechin gallate-treated cells. Journal of Cancer Research and Clinical Oncology.

疫学部 (広島)

◆ Pham TM, Kubo T, Fujino Y, Ozasa K, Matsuda S, Yoshimura T: Disability-adjusted life years (DALY) for cancer in Japan in 2000. Journal of Epidemiology 2011 (May); 21(4):309-12

印刷中の論文

⌘ Sakata R, Kleinerman RA, Mabuchi K, Stovall M, Smith SA, Wactawski-Wende J, Cookfair DL, Boice JD, Inskip PD: Cancer mortality following radiotherapy for benign gynecologic disorders. Radiation Research.

情報技術部

印刷中の論文

⌘ Katayama H: RERF databases and implications for future studies. Radiation Protection Dosimetry.

特定の研究計画書によらない学会発表

次の学会発表は特定の研究計画書に関連していないが予備調査に基づくもの、または外部機関との共同研究あるいは全般的な研究情報である。部別にリストした。

理事および主席研究員

- ❖ 中村 典。原爆放射線被曝による白血球リスク増加の機構。第18回国際歯顎顔面放射線学会議、2011年5月25-29日。広島
- ❖ Douple EB、藤原佐枝子、楠 洋一郎、Grant EJ、児玉喜明、高橋規郎、片山博昭、陶山昭彦、Shore RE。放射線影響研究所による他に類を見ない保存データ・生物試料の使用。第14回国際放射線研究会議、2011年8月28日-9月1日。ポーランド、ワルシャワ
- ❖ Shore RE。チェルノブイリ汚染除去作業における白内障有病率研究。低線量放射線被曝による水晶体混濁に関する予備的ワークショップ、2011年9月20-23日。フランス、ボンボン
- ❖ 大久保利晃。原子力災害対応労働者の健康管理—緊急事態収束後の対応。産業医科大学国際シンポジウム、2011年11月8-9日。北九州

放射線生物学部／分子疫学部

- ❖ 山崎勝央、高橋規郎。原子力発電所事故により山形県に非難した人々への支援。第52回原子爆弾後障害研究会、2011年6月5日。広島

疫学部 (広島)

- ❖ 小笹晃太郎、鷲尾昌一、福島若葉、大藤さところ。ワクチンによるインフルエンザの予防と対策に関する啓発。第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10月19-21日。秋田

統計部

- ❖ Cullings HM。福島原子力発電所事故の被災地域の住民に関する線量再構築と線量における不確実性の問題。久留米大学バイオ統計学フォーラム、2011年7月30日。久留米
- ❖ Abbott RD。生活習慣と寿命：ホノルル心臓調査による研究成果。第76回日本循環器学会、2012年3月16日。福岡

情報技術部

- ❖ 片山博昭、井岡亜希子、津熊秀明。GISを利用した乳がん健診の地域絞り込みについて。第33回国際がん登録協議会学術総会、2011年10月11-13日。モーリシャス、バラクラバ

所内学術講演およびセミナー

2011年4月1日－2012年3月31日

本年度下記の口頭発表（日付順）が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

中島栄二 放射線影響研究所統計部副部長、第263回広島統計談話会、演題「原爆被爆者における白内障研究最新情報、および皮質白内障オクタントデータの解析」4月22日

Eeva K Salminen フィンランドTurku大学教授兼Turku大学病院医長、演題「低線量医療被曝に関する欧州ドレミ・メロディ調査プログラムについて」5月19日

藤越康祝 広島大学名誉教授、中央大学客員教授、第264回広島統計談話会、演題「判別分析と正準相関分析における固有値・固有ベクトルの高次元漸近分布」5月27日

Mitchell S. Turker 米国オレゴン健康科学大学分子医学遺伝学教授（米国国務省ジェファーソン科学フェロー）、演題「荷電粒子放射線のゲノム影響：不安定性またはカストロフィ？」6月16日

若木宏文 広島大学大学院理学研究科数学専攻教授、第265回広島統計談話会、演題「ガンマ関数に関係した分布の漸近展開公式の計算可能な誤差限界」7月1日

Andre Bouville 元米国国立がん研究所（NCI）放射線疫学部門線量測定ユニット長、演題「マーシャル諸島で行われた核兵器実験に起因する放射線量とリスク」9月15日

Wan-Ling Hsu 放射線影響研究所統計部研究員、第266回広島統計談話会、演題「喫煙や放射線によるがんリスクへの慢性炎症の媒介的な関与」9月30日

二宮嘉行 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所応用理論研究部門准教授、第267回広島統計談話会、演題「検定間の相関が高い多重検定問題に対するp値評価について」11月4日

Marcel R. M. van den Brink 米国スローンケタリング記念がんセンター造血器腫瘍学部長、演題「T細胞再構成を強化する方策」11月28日

櫻井哲朗 筑波大学大学院ビジネス科学研究科経営システム科学専攻助教、第268回広島統計談話会、演題「多変量分散分析と判別分析における高次元データ解析」12月2日

五條堀 孝 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所副所長兼生命情報・DDBJ研究センター教授、演題「次世代シーケンサーを用いたゲノム関連研究

の展開」12月16日

小倉啓司 財団法人環境科学技術研究所先端分子生物科学研究センター生物影響研究部研究員、演題「低線量率ガンマ線長期連続照射したオス親から生まれた仔に生じるゲノム変異」1月20日

放影研研究懇話会（2011年度）

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的意見を得ることを目的とする。

John B. Cologne 統計部研究員、演題「放射線生物学／分子疫学部の『がん発症と免疫関連遺伝子との関係（RP 4-04）』におけるケース・コホート・データの多相解析」4月22日

浅川順一 遺伝学部研究員、演題「高密度マイクロアレイを用いたCGH解析によるゲノムコピー数変異の検出：放射線の遺伝リスク評価のための試行調査」5月27日

林 奉権 放射線生物学／分子疫学部副部長、演題「原爆被爆者におけるインフルエンザワクチン効果調査：予備的調査の結果と今後の研究計画」7月8日

立川佳美 臨床研究部副主任研究員、演題「個々の多因子疾患に対する遺伝的影響：被爆二世健康調査」8月19日

小笹晃太郎 疫学部長、演題「寿命調査集団における1950－2003年のがんおよび非がん疾患のリスク」10月14日

Robert D. Abbott 統計部主任研究員、演題「適度な運動と寿命：ホノルル－アジア加齢調査に基づく所見」11月11日

佐藤康成 遺伝学部研究員、演題「BACアレイCGH法により日本人集団に観察されたコピー数変化（CNVs）のまとめ」12月22日

濱谷清裕 放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室長、演題「原爆被爆者における甲状腺乳頭癌でこれまでに分かった分子的特徴と今後の課題」1月20日

放影研職員の受賞

2011年4月1日－2012年3月31日

辻 隆弘 遺伝学部遺伝生化学研究室副技師長および**富永豪** 広島臨床研究部臨床検査科主任技師が広島県危険物安全協会連合会より平成23年度広島県優良危険物取扱者表彰を受賞。

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

外部機関名称	件数	研究資金(概算)合計
厚生労働省	12	¥14,400,000
文部科学省	11	¥26,520,000
独立行政法人 国立長寿医療研究センター	1	¥5,500,000
公益信託 日本動脈硬化予防研究基金	1	¥2,000,000
独立行政法人 国立がん研究センター	1	¥1,255,000
公益財団法人 高松宮妃癌研究基金	1	¥2,000,000
一般社団法人 日本化学工業協会	1	¥5,000,000
財団法人 骨粗鬆症財団	1	¥800,000
独立行政法人 放射線医学総合研究所	1	消耗品の現物支給
米国国立がん研究所 (NCI) 契約	1	¥20,469,765
米国国立アレルギー感染症研究所	1	¥179,325,391
総 合 計	32	¥257,270,156

注) ・間接費を含む。
 ・研究担者の配分額を含む。
 ・複数の部の研究員が一つの包括的な外部資金によって個別に資金を受領している場合が幾つかある。
 このような場合、これら個別の資金を複数の外部資金として数えている。

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	委託組織の名前と場所および	放影研における研究担当者	期間	研究資金 (実績)
臨床研究部 (広島) 膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「長寿科学総合研究事業」 研究代表者 吉村 典子 東京大学医学部附属病院特任准教授	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「長寿科学総合研究事業」 研究代表者 阿久根 徹 東京大学医学部附属病院特任准教授	藤原 佐枝子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	¥3,500,000
運動器疾患の評価と要介護予防のための指標開発および効果的介入方法に関する調査研究	独立行政法人 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費 研究代表者 原田 敦 国立長寿医療研究センター病院部長	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「長寿科学総合研究事業」 研究代表者 福永 仁夫 川崎医科大学学長	藤原 佐枝子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	¥1,500,000
高齢者の運動器疾患の調査とそれに係る新規長寿医療の開発	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 門脇 孝 東京大学大学院医学系研究科教授	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 岡村 智教 慶應義塾大学医学部 教授	山田 美智子 研究協力者 立川 佳美	2011年4月1日－ 2012年3月31日	¥1,150,000
効率的な介護低減を目指した骨粗鬆症対策	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「平成 23 年度研究助成」 研究代表者 山田 美智子 放射線影響研究所臨床研究部健診科長	公益信託 日本動脈硬化予防研究基金 研究代表者 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授	山田 美智子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	¥1,850,000
大規模コホート共同研究の発展による危険因子管理の優先順位の把握と個人リスク評価に関するエビデンスの構築	文部科学省 科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」 研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部副部長	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「平成 23 年度研究助成」 研究代表者 山田 美智子 放射線影響研究所臨床研究部健診科長	藤原 佐枝子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	¥2,000,000 広島大学の共同研究者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
成人健康調査集団における動脈硬化・認知症ならびに ADL の評価	文部科学省 科学研究費助成事業「若手研究 (B)」 研究代表者 立川 佳美 放射線影響研究所臨床研究部健診科副主任研究員	文部科学省 科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」 研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部副部長	藤原 佐枝子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	直接経費 ¥2,000,000 間接経費 ¥600,000
脂溶性肝疾患の進展促進因子に関する前向きコホート研究	文部科学省 科学研究費助成事業「若手研究 (B)」 研究代表者 立川 佳美 放射線影響研究所臨床研究部健診科副主任研究員	文部科学省 科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」 研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部副部長	藤原 佐枝子	2011年4月1日－ 2012年3月31日	直接経費 ¥700,000 間接経費 ¥210,000

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期間	研究資金 (実績)
臨床研究部 (広島) 高齢者の動脈硬化性疾患と骨折リスク— 広島コホート調査	財団法人 骨粗鬆症財団 研究代表者 高橋 郁乃 研究員	リリー 研究助成金 放射線影響研究所臨床研究部健診科		2012 年 1 月 1 日— 2012 年 12 月 31 日	¥800,000
臨床研究部 (長崎) 進行性心臓伝導障害の病態診断と遺伝子 基盤に関する研究	厚生労働省 「難治性疾患克服研究事業」 研究代表者 蒔田 直昌 教授	厚生労働省 研究費補助金 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	赤星 正純	2011 年 4 月 1 日— 2012 年 3 月 31 日	¥900,000
遺伝学部 放射線被ばく事故に備えた染色体ネット ワークの構築	独立行政法人 放射線医学総合研究所 染色体ネットワークショップ 主任研究者 数藤 由美子 医療研究センター被ばく線量評価部生物線量評価室長		児玉 喜明	2011 年 6 月 15 日— 2012 年 6 月 14 日	消耗品の現物支給 (¥300,000 相当)。
個体内における電離放射線誘発突然変異 成立過程の解明	文部科学省 「基盤研究 (S)」 研究代表者 三谷 啓志 科教授	科学研究費助成事業 東京大学大学院新領域創成科学研究科	野田 朝男	2011 年 4 月 1 日— 2012 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,900,000 間接経費 ¥570,000
ヒト女性における放射線被ばくの遺伝的 影響評価モデル	文部科学省 「基盤研究 (B)」 研究代表者 浅川 順一	科学研究費助成事業 放射線影響研究所遺伝学部研究員	浅川 順一 古川 恭治 (統計部) 中村 典 (主席研究員)	2011 年 4 月 1 日— 2012 年 3 月 31 日	直接経費 ¥500,000 間接経費 ¥150,000
高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた 原爆放射線の遺伝的影響調査	文部科学省 「基盤研究 (B)」 研究代表者 小平 美江子 化学研究室長	科学研究費助成事業 放射線影響研究所遺伝学部遺伝生 化学研究室長	浅川 順一 古川 恭治 (統計部) 中村 典 (主席研究員)	2011 年 4 月 1 日— 2012 年 3 月 31 日	直接経費 ¥5,600,000 間接経費 ¥1,680,000
日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異 ヘテロ保因者の皮膚がんリスクの評価	文部科学省 「基盤研究 (C)」 研究代表者 平井 裕子 学研究室長	科学研究費助成事業 放射線影響研究所遺伝学部細胞遺伝 学研究室長	児玉 喜明 中村 典 (主席研究員)	2011 年 4 月 1 日— 2012 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,600,000 間接経費 ¥480,000

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の研究者	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究者	放影研における研究分担者	期間	研究資金 (実績)
<p>遺伝学部 全身の組織・細胞を標的として、<i>in situ</i> で突然変異細胞を検出することができる遺伝子改変マウスの開発</p>	<p>一般社団法人日本化学工業協会 長期自主研究 研究代表者 野田 朝男 放射線影響研究所遺伝学部副部長</p>	<p>濱崎 幹也 平井 裕子 児玉 喜明 中村 典 (主席研究員)</p>	<p>2011 年 9 月 1 日 - 2012 年 8 月 31 日</p>	<p>¥5,000,000</p>	
<p>放射線生物学／分子疫学部 原爆被曝者における免疫老化とその他の放射線被曝後影響の調査</p>	<p>米国国立アレルギー感染症研究所 主任研究者 中地 敬 放射線影響研究所顧問およびプロジェクト代表研究者 共同主任研究者 楠 洋一郎 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長、林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長</p>	<p>Evan B. Douple (主席研究員) 京泉 誠之 今井 一枝 伊藤 玲子 梶村 順子 吉田 健吾 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 大石 和佳 (臨床研究部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部)</p>	<p>2009 年 10 月 1 日 - 2014 年 9 月 30 日</p>	<p>直接経費 ¥154,720,084 間接経費 ¥24,605,307</p>	
<p>炎症関連疾患リスクに関与する免疫遺伝的要因と環境の分子疫学研究</p>	<p>文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (B)」 研究代表者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部副部長</p>	<p>連携研究者 中地 敬 (放影研 顧問およびプロジェクト代表 研究者) 楠 洋一郎 小川 貴彦</p>	<p>2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日</p>	<p>直接経費 ¥3,700,000 間接経費 ¥1,110,000</p>	
<p>原爆被曝者に発生した肺がんの分子腫瘍学的研究</p>	<p>文部科学省 科学研究費助成事業 「若手研究 (B)」 研究代表者 多賀 正尊 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室研究員</p>	<p>楠 洋一郎 林 奉権</p>	<p>2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日</p>	<p>直接経費 ¥900,000 間接経費 ¥270,000</p>	
<p>放射線障害と宿主主要因からみたがんの分子基盤とその臨床応用に関する研究</p>	<p>厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次がん総合戦略研究事業」 研究代表者 安井 弥 広島大学大学院医歯薬学総合研究科放射線ゲノム医学講座教授</p>	<p>楠 洋一郎 林 奉権</p>	<p>2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日</p>	<p>¥2,500,000</p>	

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期間	研究資金 (実績)
放射線生物学／分子疫学部 放射線発がんの分子機構—原爆被爆者の 結腸がんおよび甲状腺乳頭癌について	公益財団法人 高松宮妃癌研究基金 研究助成金 研究代表者 濱谷 清裕 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部細胞生物学研究室長	共同研究者 伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	¥2,000,000
疫学部 (広島) 原爆被爆者の乳がんに関する免疫組織学 的疫学研究	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部部長		2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	直接経費 ¥2,600,000 間接経費 ¥780,000
後期高齢期・超高齢期に達することに関 連する生活習慣要因のコホート研究によ る検討	文部科学省 科学研究費助成事業 「基礎研究 (B)」 研究代表者 玉腰 暁子 愛知医科大学医学部公衆衛生学教授	連携研究者 小笹 晃太郎	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	連携研究者のた め、研究資金の 配分なし。
放射線への曝露による発がんの分子機構 に関する研究	独立行政法人 国立がん研究センター がん研究開発費 主任研究者 山下俊一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原 爆後障害医療研究施設分子医療部門分子診断分野教授	小笹 晃太郎	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	¥1,255,000
予防接種に関するワクチンの有効性・安 全性等についての分析疫学研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」 研究代表者 廣田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科教授	小笹 晃太郎	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	¥700,000
がん罹患・死亡動向の実態把握に関する 研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科教授	杉山 裕美 研究協力者 片山 博昭 (情報 技術部)	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	¥650,000
疫学部 (長崎) 既存統計資料に基づくがん対策進捗の評 価手法に関する実証的研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「がん臨床研究事業」 研究代表者 津熊 秀明 大阪府立成人病センターがん予防情 報センター長	研究協力者 早田 みどり	2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日	研究協力者のた め直接経費の配 分はないが、必 要経費分の支給 (¥300,000 相当) があった。

平成 23 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期間	研究資金 (実績)
疫学部 (長崎) がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第3次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科教授	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第3次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 大阪大学大学院医学系研究科教授	早田 みどり 研究協力者 片山 博昭 (情報 技術部)	2011年4月1日 - 2012年3月31日	¥650,000
情報技術部 セミパラチンスク旧核実験場近郊住民を 対象とした疫学データベース構築と健康 影響調査	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 片山 博昭 放射線影響研究所情報技術部長	文部科学省 科学研究費助成事業 「基盤研究 (C)」 研究代表者 片山 博昭 放射線影響研究所情報技術部長		2011年4月1日 - 2012年3月31日	直接経費 ¥900,000 間接経費 ¥270,000
その他 原爆被爆者におけるがんの疫学的研究支 援	米国立がん研究所 (NCI) 契約 米国メリーランド州ベセスダ、米国立がん研究所 NCI 契約 N01-CP-31012 主任研究者 見玉 和紀 放射線影響研究所主任研究員 共同主任研究者 Roy E. Shore 放射線影響研究所副理事長	米国立がん研究所 (NCI) 契約 米国メリーランド州ベセスダ、米国立がん研究所 NCI 契約 N01-CP-31012 主任研究者 見玉 和紀 放射線影響研究所主任研究員 共同主任研究者 Roy E. Shore 放射線影響研究所副理事長	Evan B. Douple (首席研究員) 中村 典 (首席研究員) 徳岡 昭治 (放影研顧問) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) Harry M. Cullings (統計部) Wan-Ling Hsu (統計部) 古川 恭治 (統計部) 片山 博昭 (情報技術部) 平井 裕子 (遺伝学部) 楠 洋一郎 (放射線生物学/分 子疫学部) 濱谷 清裕 (放射線生物学/分 子疫学部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部)	2008年12月1日 - 2013年11月30日	直接経費 ¥14,244,796 間接経費 ¥6,224,969
			総 合 計		¥257,270,156

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研における研究者	放射線研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) Ni-Hon-Sea (Nippon-Honolulu-Seattle) プログラム (認知症の罹患率と発生率)	山田 美智子	藤原 佐枝子	笠置 文善 (放射線影響学会) 鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック) 佐々木 英夫 (広島原爆障害対策協議会) 三森 康世 (広島国際大学) White L (ホノルル加齢調査) Larson E (米国シアトル保健協同組合健康調査センター)	1992
原爆被爆者における眼科調査 (成人健康調査 [AHS] 白内障調査)	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 立川 佳美 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2000
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのコホート内症例対照研究	大石 和佳	Grant EJ (疫学部) Cologne JB (統計部) 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 中島 栄二 (統計部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) Sharp GB (米国国立アレルギー感染症研究所) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金) Stevens RG (米国コネチカット大学保健センター) Berrington A (米国国立がん研究所)	2002
被爆二世における眼科調査	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 立川 佳美 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2002
一次予防における骨粗鬆症評価	Kamis J (英国シェフィールド大学)	藤原 佐枝子	De Laet C (オランダ、エラスムス大学) Melton LJ III (米国メイヨークリニック)	2003
凍結血清およびゲノム DNA を用いた萎縮性胃炎および胃がんに関する症例対照研究: 胃がんに伴う慢性胃炎の新たなバイオマーカーの同定	藤原 佐枝子	Cullings HM (統計部) 大石 和佳 林 奉権 (放射線生物学/分子疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 遺伝的要因は近距離被爆生存者の集団的偏りを来し得るか?—同一の遺伝的要因が 40—50 年後の AHS 対象者で高炎症状態および心筋梗塞のリスク要因となった可能性を検証する	藤原 佐枝子	大石 和佳 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Cologne JB (統計部)		2005
原爆被爆者における緑内障調査	木内 良明 (広島大学)	中島 栄二 (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2005
原爆被爆者における炎症とがん発生率	立川 佳美	Hsu WL (統計部) 中島 栄二 (統計部) 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 藤原 佐枝子 Cologne JB (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) Little MP (米国立衛生研究所) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2005
非がん死亡における中間危険因子	William L (米国ワシントン大学)	Hsu WL (統計部) 高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 見玉 和紀 (主席研究員)	Kopecky KJ (米国ワシントン大学、フレッドハッチソンがん研究センター) Davis S (米国ワシントン大学、フレッドハッチソンがん研究センター)	2006
AHS におけるがん以外の疾患の集積に関連するリスク因子と修飾因子：統計データマイニング法を用いた解析	角間 辰之 (久留米大学)	Cologne JB (統計部) 古川 恭治 (統計部) Hsu WL (統計部) 山田 美智子 見玉 和紀 (主席研究員) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子		2006

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研における研究者	放射線研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 肥満度指数 (BMI) と死亡率	Thun M (米国がん協会)	大石 和佳 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長)	鍊石 和男 (八千代病院) Blakely EA (米国立バークレイ研究所) Chang P (米国 SRI インターナショナル) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョーンソン宇宙センター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2008 2008
原爆被爆者の白内障水晶体標本の保存状況の検討およびその収集と保存	飛田 あゆみ	立川 佳美 中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 林 奉権 (放射線生物学/分子疫学部) 伊藤 玲子 (放射線生物学/分子疫学部) 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者)	鍊石 和男 (八千代病院) Blakely EA (米国立バークレイ研究所) Chang P (米国 SRI インターナショナル) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョーンソン宇宙センター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2008
被爆者の緑内障発症および大動脈動脈硬化に関連する網膜保存画像を用いた標準化測定による網膜細動脈硬化および加齢性黄斑変性の評価	高橋 郁乃	Abbott RD (統計部) 中島 栄二 (統計部) Hsu WL (統計部) 藤原 佐枝子 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	柳 昌秀 (広島大学) 板倉 勝昌 (広島大学) 川崎 良 (メルボルン大学) 横山 知子 (広島大学) 高松 倫也 (広島大学) 木下 博文 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 上松 聖典 (長崎大学) 隈上 武志 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 鍊石 和男 (八千代病院)	2010
広島 AHS 対象集団における体組成に関する調査	立川 佳美	藤原 佐枝子 三角 宗近 (統計部) 大石 和佳 山田 美智子	鍊石 和男 (八千代病院) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョーンソン宇宙センター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2010

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) ブルガタ型心電図と前立腺がんとの関係	春田 大輔 (長崎大学)	赤星 正純 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
心血管疾患と原爆放射線一危険因子集簇の観点から	世羅 至子	赤星 正純 飛田 あゆみ 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
脂肪肝の発生頻度と危険因子	恒任 章 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純		2008
潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析	Rodondi N (スイス、ローザンヌ大学)	今泉 美彩	Gussekloo J (オランダ、ライデン大学医学センター)	2008
心室期外収縮の発生部位の違いにおける予後の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 赤星 正純		2008
早期再分極異常の発生率および予後評価の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純	恒任 章 (長崎大学)	2008
被爆者における慢性腎疾患と心血管疾患との関連	恒任 章 (長崎大学)	高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 山田 美智子 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) Hsu WL (統計部) 三角 宗近 (統計部) 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 赤星 正純	錬石 和男 (八千代病院)	2009

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) QT 短縮の遺伝子基盤に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	赤星 正純 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部)	春田 大輔 (長崎大学) 前村 浩二 (長崎大学)	2011
進行性心臓伝導障害の疫学と遺伝子異常に関する研究	蒔田 直昌 (長崎大学)	赤星 正純 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部)	春田 大輔 (長崎大学) 前村 浩二 (長崎大学)	2012
日本人における体重変動とがん、循環器疾患の罹患および死亡との関連	南里 明子 (国立国際医療研究センター)	世羅 至子 高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部) Cologne JB (統計部) Hsu WL (統計部) Cullings HM (統計部) 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 赤星 正純	溝上 哲也 (国立国際医療研究センター) 荒木 由布子 (久留米大学)	2012
遺伝学部 原爆被爆者における早発性の乳がんおよび卵巣がんにおける分子学的変化	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Land CE (米国立がん研究所)	平井 裕子		2001
ラット卵母細胞における突然変異の検出	上口 勇次郎 (旭川医科大学)	浅川 順一		2003
高血圧等循環器疾患のゲノム情報の多元的意義付けと画期的診断・治療法の開発	森崎 隆幸 (国立循環器病センター)	高橋 規郎 (放射線生物学/分子疫学部)		2005
長崎の原爆被爆者から得られた菌試料の ESR 測定	朝長 万左男 (長崎大学) 飯島 洋一 (長崎大学) 三根 真理子 (長崎大学) 奥村 寛 (長崎大学)	平井 裕子 中村 典 (主席研究員)		2005
ES 細胞のターゲットインゲ	末盛 博文 (京都大学)	野田 朝男		2007
胎仔照射したラット乳腺上皮細胞における染色体調査	島田 義也 (放射線医学総合研究所)	児玉 喜明		2008

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
遺伝学部 放射線の遺伝影響測定モデル動物の作成	三谷 啓志 (東京大学大学院)	野田 朝男		2009
放射線のマウスオスオス生殖細胞に及ぼす遺伝的影響評価：高密度マイクロアレイ CGH 法を用いた調査	島田 義也 (放射線医学総合研究所)	浅川 順一		2009
日本人に特有な XPA 遺伝子創始者変異ヘテロ保因者における非黒色腫皮膚がんリスクの評価	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Kraemer KH (米国立がん研究所)	平井 裕子 中村 典 (主席研究員)		2009
コピー数変異を同定するために高密度アレイシステムを用いた原爆放射線の継世代影響試行調査	西田 奈央 (東京大学) 徳永 勝士 (東京大学)	高橋 規郎 (放射線生物学/分子疫学部) 佐藤 康成		2010
動物モデルを使った放射線により誘発される循環器疾患の研究	小久保 年章 (放射線医学総合研究所) 稲葉 俊哉 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	高橋 規郎 (放射線生物学/分子疫学部) 丹羽 保晴 (放射線生物学/分子疫学部)		2011
放射線生物学/分子疫学部 散発性肺癌がんにおける遺伝子変異と遺伝的感受性の研究 (SNP)	清水 憲二 (岡山大学)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002
散発性肺癌がんにおける遺伝子変異と発現の研究	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002
日本人集団における様々な遺伝子多型の頻度調査	吉田 輝彦 (国立がんセンター)	中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) 楠 洋一郎 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 胃がんの遺伝的感受性の研究	安井 弥 (広島大学)	林 奉権 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 伊藤 玲子 今井 一枝		2002
細胞への放射線影響における低酸素応答遺伝子 <i>HIF1α</i> の役割に関する研究	谷本 圭司 (広島大学)	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
甲状腺がん新鮮組織の収集 (広島)	濱谷 清裕	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	武市 宣雄 (武市クリニック)	2004
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (広島)	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子	有廣 光司 (広島大学) 林 雄三 (安佐市民病院)	2002
細胞膨化致死毒素による抹消リンパ球アポト シス誘導の研究	管井 基行 (広島大学) 小原 勝 (広島大学)	楠 洋一郎 林 奉権 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2001
放射線と抗がん剤の組み合わせによるアポトー シス誘導におけるギャップ結合の役割に関する 研究	小川 貴彦 (県立広島病院) 林 奉権	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	吾郷 里華 (広島大学) Trosko JE (米国ミシガン州立大学)	1998
遺伝子改変マウスの <i>TCR</i> 遺伝子および <i>HPR1</i> 遺 伝子変異の解析	笹谷 めぐみ (広島大学原爆放 射線医学研究所)	楠 洋一郎 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	神谷 研二 (広島大学原爆放射線医学研究 所)	2004
散発性胃癌がんにおける遺伝子メチル化の役割 の研究	湯浅 保仁 (東京医科歯科大学)	今井 一枝 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2003
散発性乳がんの発生・進展の分子生物学的研究	林 慎一 (東北大学)	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝 林 奉権	江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 がん細胞のアポトーシスにおける細胞間コミュニケーションの役割の研究	林 奉権	吾郷 清裕 小川 正尊 安井 玲子	吾郷 里華 (広島大学) 小川 貴彦 (県立広島病院) 安井 弥 (広島大学)	2005 2004
原爆被爆者に発生したがんの組織試料収集	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子	林 幾江 (広島大学)	2006
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生への放射線影響の研究	林 奉権	多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)	安井 弥 (広島大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2004
原爆被爆者における胃がんの研究	濱谷 清裕	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)	安井 弥 (広島大学)	2006
末梢リンパ球を用いた放射線誘発遺伝的不安定性の機序に関する研究	安井 弥 (広島大学)	楠 洋一郎 濱崎 幹也 (遺伝学部)		2008
散発性胃がんの臨床および分子病理学的解析	本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所) 安井 弥 (広島大学)	伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)		2004
放影研症例研究のための新規統計モジュールの開発	和泉 志津恵 (大分大学)	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 古川 恭治 (統計部)		2006
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (長崎)	濱谷 清裕	早田 みどり (長崎疫学部)	中島 正洋 (長崎大学) 関根 一郎 (長崎県赤十字血液センター) (ほか)	2005
散発性胃がんにおける炎症性サイトカインの役割	菅沼 雅美 (埼玉県立がんセンター)	今井 一枝 林 奉権 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)		2006

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 原爆被爆者の肺がんの分子疫学的特徴の研究	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子	Harris CC (米国国立がん研究所) 安井 弥 (広島大学) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
アジア太平洋地域における心血管疾患の共同コ ホート研究	Asian Pacific Cohort Studies Collaboration (オーストラリ ア、ジョージ国際健康研究所)	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1996
ドイツ人および日本人に発生した乳がんの細胞 遺伝学的・分子疫学的差異	Brandt B (ドイツ、ミュンスター 大学)	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1998
幹細胞への放射線および薬物影響の生物学	林 奉権	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	Trosko JE (米国シガン州立大学) 林 幾江 (広島大学)	2002
ゲノムデータの統計学的解析方法の評価	今井 一枝	中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者) Cologne JB (統計部)	Victor A (ドイツ、マインツ大学)	2006
甲状腺腫瘍の分子解析	武市 宣雄 (武市クリニック)	濱谷 清裕 中地 敬 (放射線顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2008
疫学部 (広島) 日本におけるトロトラスト患者と原爆被爆者の 肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研 究所)	清水 由紀子 (非常勤研究員) Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 徳岡 昭治 (放射線顧問)		2001
放射線防護基準に関する疫学研究のタスクグルー プ	坂田 律		笠置 文善 (放射線影響学会) 秋葉 澄伯 (鹿児島大学) 吉永 信治 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 水野 正一 (国立健康・栄養研究所) 笹川 澄子 (環境科学技術研究所) 岩崎 利泰 (電力中央研究所) 榎田 尚樹 (国立保健医療科学院) 吉本 恵子 (放射線影響学会)	2005

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線研における研究者	放射線研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 原爆被爆者における放射線治療と第二原発がん リスクの関連	吉永 信治 (放射線医学総合研 究所)	早田 みどり (長崎疫学部) 森脇 宏子 Hsu WL (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 片山 博昭 (情報技術部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部)	笠置 文善 (放射線影響学会) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 赤羽 恵一 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 島田 義也 (放射線医学総合研究所)	2007
喫煙、禁煙の健康影響の研究	Darby S (英国オックスフォード 大学)	坂田 律 Grant EJ 杉山 裕美 (長崎疫学部) 早田 みどり (非常勤研究員) 清水 由紀子 (臨床研究部) 立川 佳美 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 森脇 宏子 (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 児玉 和紀 (主席研究員)	McGale P (英国オックスフォード大学) Boreham J (英国オックスフォード大学) Peto R (英国オックスフォード大学)	2007
寿命調査 (LSS) 集団における結腸がん罹患率へ の放射線の影響に対する身体計測値の交絡ある いは交互作用	Semmens E (米国ワシントン大 学)	Grant EJ 杉山 裕美 森脇 宏子 坂田 律 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 児玉 和紀 (主席研究員)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) Li CI (米国ワシントン大学) 笠置 文善 (放射線影響学会) Davis S (米国ワシントン大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 馬淵 清彦 (米国国立がん研究所)	2008
食道がんと胃がん：広島と長崎におけるリスク の傾向と予測因子	Kennedy BS (米国ジョージタウ ン大学)	Grant EJ 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 杉山 裕美 (長崎疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 山田 美智子 (臨床研究部)	馬淵 清彦 (米国国立がん研究所) Chow WH (米国国立がん研究所) 笠置 文善 (放射線影響学会) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2008

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 原爆被爆者における放射線被曝と腎疾患との関連性	Adams MJ (米国ロチェスター大学)	Grant EJ 見玉 和紀 (主席研究員) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 坂田 律 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	笠置 文善 (放射線影響学会)	2008
放射線に関連した甲状腺がんの第 2 回共同解析	坂田 律	Shore RE (副理事長)	Veiga L (米国立がん研究所) Lubin J (米国立がん研究所)	2008
アジア人コホート研究コンソーシアムへの参画 提案プロジェクト 1: 喫煙・飲酒・肥満度と稀ながん のリスク、プロジェクト 2: BMI と全死亡率 (第 2 段階)、プロジェクト 3: アジア人コホート における肥満度 (BMI) と中頻度および低頻度 のがんのリスク、プロジェクト 4: アジア人における 食習慣と死亡率	Potter J (米国フレッドハッチンソンがん研究センター) Kang D (韓国ソウル国立大学医学部)	Grant EJ 小笹 晃太郎 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長)		2010
LSS 集団における甲状腺腫瘍発生率の調査	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	徳岡 昭治 (放射線顧問) 坂田 律 古川 恭治 (統計部) 船本 幸代 (統計部)	Preston DL (米国立ヒロンフット・インターナショナル) 林 雄三 (介護老人保健施設陽だまり) 津田 暢夫 (長崎県健康事業団)	2009
疫学部 (長崎) 長崎原爆被爆者に発生した病理組織学的診断根拠のある多重がん症例の同定	中島 正洋 (長崎大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2007
長崎県がん登録に基づく放射線治療環境と患者 子後についての研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008
長崎県がん登録に基づく患者受療動態から見た 医療圏の研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008
長崎県の小児がん患者における治療医療機関の 集中化と生存率についての検討	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 原爆被爆者のデータにおける染色体異常、放射線の初期影響および後影響に関する同時解析	Stram D (米国南カリフォルニア大学)	Cologne JB Cullings HM 古川 恭治 三角 宗近		2007
コホート内疫学研究の抽出についてのデザインおよび検出力	Cologne JB	Cullings HM	和泉 志津恵 (大分大学) 藤井 良宣 (宮崎大学) Langholz B (米国南カリフォルニア大学)	2002
がんリスクの機序モデル	Dekkers F (オランダ国立公衆衛生環境研究所) Bijwaard H (オランダ国立公衆衛生環境研究所)	Hsu WL		2007
がんリスクの機序モデル	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM		2008
消化管がんに関する分子学的研究 (DNA メチル化等)	松原 長秀 (岡山大学)	Cullings HM		2004
日本におけるトロトロラスト投与患者と原爆被爆者における肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM Cologne JB 清水 由紀子 (疫学部非常勤研究員)		2005
原爆被爆者線量推定値における不確実性を評価しそれに対処するための操作変数としての生物学的線量推定値：AHS の部分集団における予備評価	Carter R (米国バップフロー大学)	Cullings HM 児玉 和紀 (主席研究員) 楠 洋一郎 (放射線生物学 / 分子疫学部) 中村 典 (主席研究員) 小笹 晃太郎 (疫学部) 今泉 美彩 (長崎臨床研究部) Cologne JB 中島 栄二 三角 宗近 船本 幸代 Douple EB (主席研究員)	Miller A (米国バップフロー大学) Tekwe C (米国バップフロー大学) 鍊石 和男 (八千代病院) Stram D (米国南カリフォルニア大学)	2007

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 胎内被爆者または若年被爆者におけるがん罹患率のリスク評価	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	Cullings HM 見玉 和紀 (主席研究員) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) Shore RE (副理事長)		2007
歯エナメル質 ESR 測定値の遮蔽カーマと臓器線量への換算のための特殊モンテカルロ計算法	中村 典 (主席研究員) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
スペクトルデコンボリューション、新手法および新情報を用いた、放影研の歯の ESR 測定データの更新	中村 典 (主席研究員) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
個々のデータをを用いたリスク評価のバイズ的アプローチ	Little MP (米国立衛生研究所)	Cullings HM 古川 恭治 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 坂田 律 (疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 笠置 文善 (放射線影響協会) Molitor J (米国南カリフォルニア大学)	2007
リスク評価の地理空間一時間的アプローチ	Patil GP (米国ペンシルベニア州立大学)	Cullings HM 古川 恭治 ほか	Lawson A (米国サウスカロライナ大学) Jacquez G (米国バイオメドウェア株式会社)	2007
放射線被曝およびバイオマーカーのための関数法	Wang CY (米国フレッドハットチンソンがん研究センター)	Cullings HM		2007
LSS コホートにおける白血病、リンパ腫と多発性骨髄腫の罹患率：1950-2001 年	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	Hsu WL 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 船本 幸代	笠置 文善 (放射線影響学会)	2004
放射線、炎症および特定の放射線・炎症誘発健康影響に対する因果モデルの適用	Hsu WL	中島 栄二 坂田 律 (疫学部) 高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部)	鎌石 和男 (八千代病院) 角間 辰之 (久留米大学) 荒木 由布子 (久留米大学)	2007

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 タイトルおよび線量へのガンマ線量の熱ルミネセンス測定	丸山 隆司 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM		1999
チェルノブイリ事故後の甲状腺がんと甲状腺疾患のためのコホートにおける甲状腺機能亢進症の有病率	Hatch M (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
米国における成人甲状腺機能亢進症のための放射線ヨウ素治療のがん死亡率への関連	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
原爆被爆者における放射線被曝と喫煙の肺がんリスクへの相互効果	Preston DL (米国ヒロソフ・インターナショナル)	古川 恭治 船本 幸代 徳岡 昭治 (放射線顧問)	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) 江川 博彌 (安佐市民病院) 米原 修治 (JA尾道総合病院) 松尾 武 (長崎県健康事業団)	2006
AHS 集団における動脈硬化の研究 (第 1 部: 動脈硬化性指標を用いた検討)	藤原佐枝子 (臨床研究部)	高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Hsu WL 三角 宗近	高橋 哲也 (広島大学病院) 木原 泰樹 (広島大学病院) 松本 正泰 (広島大学病院)	2009
セミパラメトリック生存外挿法: 放射線のコホートをを用いたモデルの検証	方 啓泰 (台湾大学疫学研究部)	Hsu WL 古川 恭治 Cullings HM 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	王 榮徳 (台湾大学公衆衛生学院) 黄 景祥 (台湾中央研究院) 笠置 文善 (放射線影響学会)	2009
成人健康調査集団における放射線、炎症、白内障手術への因果モデルの応用	角間 辰之 (久留米大学) Hsu WL	中島 栄二	荒木 由布子 (久留米大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2009
長期体重変動とがんおよび心血管疾患罹患および死亡に関するコホート研究	南里 明子 (国立国際医療センター研究所) 溝上 哲也 (国立国際医療センター研究所)	赤星 正純 (長崎臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) Cologne JB	荒木 由布子 (久留米大学)	2009

平成 23 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
統計部 コホート内症例対照調査における放射線と中間リスク因子の同時効果に関する評価方法	Cologne JB	古川 恭治 Hsu WL Grant EJ (疫学部) 大石 和佳 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 中地 敬 (放射線顧問およびプロジェクト代表研究者) Cullings HM	Langholz B (米国南カリフォルニア大学) 藤井 良直 (宮崎大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 鎌石 和男 (八千代病院)	2008
腹囲の推定可能性とメタボリック症候群のリスク解析への応用	中村 剛 (長崎大学)	市丸 晋一郎 (長崎臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Cullings HM 中島 栄二 三角 宗近	石田 紀子 (株式会社ピーシーエル)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：中性子線量の影響とリスク係数のノンパラメトリック解析	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン大学/国立環境保健研究所) Walsh L (ドイツ放射線防護連邦局)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：リスク推定値への放射線生物学的効果の影響	Cullings HM		Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所) Eidemüller M (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所)	2008
情報技術部 ヒト遺伝子解析用データベースの構築とユーズ・インターフェースの開発、およびディクショナリーシステムの構築に関する共同研究	Slezak T (米国ローレンスリバモア国立研究所)	片山 博昭		1996
大阪府のがん対策事業に対する包括的がん登録システム構築に関する技術協力	津熊 秀明 (大阪府立成人病センター)	片山 博昭		2005
セミパラチンスクス実験場における健康影響調査および線量測定	星 正治 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	片山 博昭		2005

国際協力活動

放影研役職員の国際協力関係活動への参加

1. 在北米被爆者健診事業への協力

この事業は1977年から2年に一度行われてきたもので、2007年度から国の在外被爆者支援事業に組み入れられ、国から広島県への委託事業となり、広島県から広島県医師会に委託される形となった。18回目となる2011年度の健診事業は、第1班が6月15日から29日までロサンゼルスとホノルルを、第2班が7月13日から27日までサンフランシスコとシアトルを訪問し、放影研から医師2人と事務担当者1人が参加した。健診団の第1班には陶山昭彦長崎疫学部長が、第2班には立川佳美広島臨床研究部副主任研究員と篠田英雄事務局人事課長が参加した。

2. 在韓被爆者健康相談事業への協力

この事業は長崎県と長崎市が国の在外被爆者支援事業の一環として、在韓被爆者の健康相談と指導を行うため2004年度から始めたものである。2011年度は、放影研から赤星正純長崎臨床研究部長が医師団に参加、9月5日から9日まで韓国ソウルで、11月6日から11日までテグで被爆者の健康相談と指導を行った。

3. 世界保健機関（WHO）関連協力

放影研は、1979年に放射線の人体影響に関するWHO研究協力センターに指定され、1988年からはWHO放射線緊急事故医学的対応・救援ネットワーク（REMPAN）のメンバーに指定されている。2011年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故を受けて、11月にRoy E. Shore 副理事長がWHOの「福島第一原子力発電所事故に関する健康リスク評価ワーキンググループ」のアドバイザーに任命された。Shore 副理事長は、2011年12月14-15日および2012年3月22-23日にスイスのジュネーブで開催されたWHOの同ワーキンググループ会議に出席した。

4. 国連原子放射線影響科学委員会（UNSCEAR）関連

児玉和紀主席研究員が、2011年5月23-27日および2012年1月30日-2月3日にオーストリアのウィーンで開催されたUNSCEAR会議、ならびに2011年10月7日、2012年2月22日および3月14日に東京で開催されたUNSCEAR国内対応委員会に出席した。

5. 国際放射線防護委員会（ICRP）関連

2009年7月より中村典主席研究員がICRP第一委員会委員を務めており、2011年12月19日に東京で開催されたICRP会議に出席した。

6. 国際原子力機関（IAEA）との協力

児玉主席研究員が、2011年11月1日から3日までオーストリア、ウィーンのIAEA本部を訪問し、放影研と放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）、IAEAとの協力体制について協議した。これを受けて、児玉喜明遺伝学部長が2012年3月21日から23日までウィーンのIAEA本部で開かれた第1回研究調整会議に出席した。

7. セミパラチンスク関係協力

広島大学原爆放射線医科学研究所との共同研究に関連して、片山博昭情報技術部長が2011年5月30日から6月4日までセミパラチンスクのカザフスタン放射線医学環境研究所を訪問し、現地の研究者と線量推定の計算について協議を行った。また、片山部長は2012年3月7日から15日にかけて、ドイツ環境衛生研究所とロシア連邦医学生物学Burnasyan医学生物物理学センターを訪問し、ドイツではBernd Grosche博士とセミパラチンスク旧核実験場周辺住民の新線量方式での放射線影響に関する疫学解析について協議、またロシアではSergey Shinkarev博士およびEvgeniya Granovskaya研究員とセミパラチンスクでの個人被曝線量推定方式について協議した。

8. 長崎大学関連

Shore 副理事長が、2011年10月20-22日に長崎市で開催された長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」のシンポジウムで基調講演を行った。

9. その他

- 1) Shore 副理事長が、2011年4月18-19日に米国イリノイ州シカゴで、5月23-24日にジョージア州アトランタで、また7月20-21日にカリフォルニア州アーバインで開催された原子力施設近傍住民のがんリスク解析に関する米国学士院主催の会議に出席し発表を行った。
- 2) Shore 副理事長が、2011年9月20-23日にフランスのボンボンで開催された放射線防護・安全研究所主催の低線量放射線被曝による水晶体混濁に関する予備的ワークショップに出席し発表を行った。
- 3) Shore 副理事長が、2011年9月26-29日にドイツのマ

インツで開催されたドイツ医療情報学・生物測定学・疫学協会およびドイツ疫学会の年次総会で発表を行った。

- 4) 児玉主席研究員が、2011年9月11-12日に福島市で開催された国際専門家会議「放射線と健康リスクー世界の英知を結集して福島を考える」に出席し発表を行った。また、同会議のシンポジウムで大久保利晃理事長が座長を務めた。
- 5) 児玉主席研究員が、2012年2月23-24日に米国ハワイ州ホノルルで行われたHICARE主催の被爆者医療研修会で三つのセミナーを担当し講師を務めた。

海外からの視察・研修などの受け入れ

2011年度総計 149人（一般見学者は除く）

【広島 129人】

放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）関係受け入れ（21人）

1) 韓国関係（7人）

2011年6月13日 韓国被爆者医療研修団研修生4人。2012年3月9日 韓国被爆者医療短期研修団研修生3人。

2) その他（14人）

2011年6月1日-7月30日 ラトビア、リガ・ストラディン大学医学部病理医師1人。2011年11月18日 ブラジル、スギサワ病院医師1人、ブラジル、サンパウロ日伯援護協会日伯友好病院医師1人、米国ハワイ州ヒナ・マウカ医療部副部長1人。2011年12月6日 ブラジル、サンパウロ日伯援護協会日伯友好病院医師1人、米国ハワイ州ヒナ・マウカ医療部副部長1人。2012年1月11日 台湾国立成功大学病院5人。2012年2月14日 ブラジル、サンパウロ・サンタクルーズ病院内科医師1人、米国ハワイ大学 John A. Burns 医学専門大学院医師1人および医学生1人。

国際協力機構（JICA）関係受け入れ（45人）

- 1) 2011年5月25日 結核予防会結核研究所「ストップ結核アクションコース」研修生11人（カンボジア、ケニア、マラウイ、フィリピン、ザンビア、ジンバブエ、中国）
- 2) 2011年7月5日 中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター「職業病予防と環境改善コース」研修生7人（インドネシア、コソボ、ラオス、モンゴル、フィリピン、マレーシア）
- 3) 2011年9月14日 北九州国際技術協力協会「勤労者のための産業保健と予防医療コース」研修生7人（マレーシア、フィリピン、ベトナム）
- 4) 2011年10月31日 国立循環器病センター「平成23年度

集団循環器病対策コース」研修生5人（フィリピン、アルバニア、アルゼンチン）

- 5) 2011年11月1日 結核予防会結核研究所「STOP TB HIV・耐性結核対策菌検査コース」研修生8人（アフガニスタン、カンボジア、インドネシア、ケニア、ミャンマー、南アフリカ共和国、ザンビア、モンゴル）
- 6) 2011年11月7日 国立がんセンター「最新のがんの診断と治療コース」研修生7人（アルバニア、コスタリカ、セルビア、ウルグアイ、スリランカ、ナイジェリア）

日本原子力研究開発機構関連受け入れ（52人）

- 1) 2011年10月23日「核物質および施設の物理的防護に係る地域トレーニングコース」研修員30人（バングラデシュ、カンボジア、中国、インドネシア、ヨルダン、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、アラブ首長国連邦、ベトナム、ミャンマー、米国）
- 2) 2011年12月2日「国内計量管理制度に係る国際トレーニングコース」研修員22人（オーストラリア、バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、カザフスタン、ラオス、マレーシア、タイ、モンゴル、トルコ、ベトナム、オーストリア）

放影研独自プログラムによる受け入れ（3人）

2011年12月5-16日 香港クイーンエリザベス病院研究員1人（中国）。2012年1月4日-2月25日 韓国国立がんセンター研究員1人（韓国）。2012年1月4日-2月25日 リガ・ストラディン大学生物化学研究室研究助手／医学生1人（ラトビア）。

国際原子力機関（IAEA）関連（4人）

2011年8月5日 Rethy Chhem IAEA 原子力科学・応用局ヒューマンヘルス部長が広島研究所を視察。2011年9月15日 Jan Wondrgem IAEA 放射線生物学担当が広島研究所を視察。2011年11月22日 Daud Mohamad IAEA 事務局次長／原子力科学・応用局長および Eduardo Rosenblatt 原子力科学・応用局ヒューマンヘルス部応用放射線生物学・放射線治療課長が広島研究所を視察。

その他（4人）

2011年7月29日 米国総領事館を通じ、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）大学院生1人が広島研究所を見学。2011年6月28日 フィンランド大使館より Rijo Kalevi Munther 技術革新財団所長が広島研究所を視察。2012年2月24日 外務省を通じ、Dimitry Anatolijovich Bazyka

ウクライナ医学アカデミー放射線医学研究センター所長兼臨床免疫学部長および Valery Alexandrovich Kashparov ウクライナ国立生命・環境科学大学ウクライナ農業放射線学研究所所長が、広島研究所を視察。

【長崎 20 人】

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) 関係受け入れ (15 人)

2011 年 7 月 28 日 2011 年度 NASHIM 夏期研修生 6 人 (ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン)。2011 年 8 月 11 日 2011 年度 NASHIM 夏期研修生 1 人 (ウクライナ)。2011 年 12 月 19 日 被曝医療研修医師団 2 人 (韓国)。2012 年 2 月 15 日 被曝医療研修医師団 2 人 (ブラジル)。2012 年 2 月 15 日 被曝医療研修医師団 4 人 (韓国)。

国際協力機構 (JICA) 関係受け入れ (5 人)

2012 年 2 月 10 日 2011 年度集団研修「医療技術スタッフ練成コース」研修員 5 人 (カンボジア、モンゴル、ソロモン、ウルグアイ)

長期研修者リスト (1 カ月以上)

2011 年 6 月 1 日 - 7 月 30 日

Sandra Jaudzema ラトビア、リガ・ストラディン大学医学部病理学研究室医師

放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、免疫機能に対する放射線被曝の影響について、特に血漿と細胞内活性酸素測定法、リンパ球の調整法、および遺伝的不安定性を調べる方法を用いた研究について研修。広島大学医学部病理学研究室 (安井 弥教授) と国立病院機構呉医療センターおよび中国がんセンター病理部で日本の病理学について研修。

2011 年 8 月 1 日 - 11 月 25 日

徐 陸周 (Luzhou Xu) 中国、南京中医薬大学附属病院医師。広島大学客員研究員。

遺伝学部細胞遺伝学研究室において、難治性放射線障害の解析について、特に電離放射線被曝後の DNA 二本鎖切断修復の機序を中心に研修。

2012 年 1 月 4 日 - 2 月 25 日

Hye-Jin Shin 韓国国立がんセンター放射線医学部門研究員
放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、放射

線による細胞死誘導機構について放射線抵抗性と感受性の細胞を用いた研究、免疫機能に対する放射線被曝の影響、ならびに免疫ゲノムに関する研究について研修。

2012 年 1 月 4 日 - 2 月 25 日

Georgijs Moisejevs ラトビア、リガ・ストラディン大学生物化学研究室研究助手／医学生

放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、放射線による細胞死誘導機構について放射線抵抗性と感受性の細胞を用いた研究、ならびに免疫機能に対する放射線被曝の影響に関する研究について研修。